

令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人塚本学院
大阪芸術大学附属松ヶ鼻幼稚園

1－1. 教育方針

○ゆとりある環境・ゆとりの保育

幼児のところに育って欲しいと願っていることは、自分の力を信じて、何にでも挑戦してみようという積極性や意欲です。家庭から幼稚園という大きな集団に入り、その中で先生や友だちと一緒に力を合わせて取り組むと楽しいという充実感、頑張ってやり遂げた時の達成感を得ることが『生きる力と思いやりの心を育てる』基礎になります。

それは他者から強制されるものではなく、幼児が自らの関心や興味をもった中から培われていくものです。そのためには、豊かな環境を提供することが園の役割と考えています。豊かな環境とは充実した設備と情緒豊かな保育者との人的環境、学びごたえのある学習環境です。

これらを踏まえ、遊びを通して幼児期に必要な体験、とりわけ「本物に直接触れる」経験を大切にした教育を目指しています。

1－2. 教育目標

○「生きる力」と「思いやりの心」を育てる

- ・楽しく生活する中で、きまりの大切さに気付き、守ろうとする。
- ・人と物の関わりの中で、自らを発揮し、考えたり試したり工夫したりする。
- ・周囲のさまざまな環境に好奇心や探求心を持って関わり、意欲的に活動する。
- ・協力することの大切さや、他者の心情を感じ取ったり、お互いの心情をぶつけ合ったりすることで得られる共感性を育む。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

1 教員一人一人の資質や指導力の向上、保育内容の充実と資質向上を目指すとともに、養成校としての役割と使命を持つ。

- ① 定期的な学年会議、職員会議を行い職員間の交流の中で自らを振り返る機会を持つ。
- ② 研修への参加や、自己評価を行うなど、教員の資質向上に努める。
- ③ 特色ある教育活動の展開や専門の教員による学び、保育内容の充実と資質向上を目指す。
- ④ 実習に来られる学生一人一人に寄り添い、適切な指導・育成を行う。

2 安全管理における環境や、健康管理の対策への取り組み

- ① 園児の健康観察及び予防に努める
- ② 園全体における感染症対策の徹底
- ③ 園全体における安全対策の徹底

3 地域の子育て支援拠点の充実

- ・未就園児対象のおやこ教室の開催日程や内容を地域に発信する。

3. 評価項目の達成および取組状況

評価項目	結果	理由
1 ① 定期的な会議	A	次の保育に繋げるため、保育内容や園児と保護者対応などを毎日話し合い、職員間の連携を深め共通理解ができるよう取り組んだ。
② 研修や自己評価による教員の資質向上	A	研修へ参加し、学びを共有することで保育に活かせるよう努めた。附属4園の職員で研究したことを発表する場を毎年設けている。年度末には自己評価を行い保育の振り返りができた。
③ 特色ある教育活動の展開 専門の教員による学び	A	大阪芸術大学の専門教員による音楽や体育指導、柔道、お茶、作陶教室など質の高い学びを展開し、保育へと繋げていくよう努めた。
④ 実習生の育成	A	実習生への指導方針を職員間で共有し、幼児教育の魅力や楽しさを感じられるよう一人一人に寄り添い適切な育成に努めた。
2 ① 園児の健康観察	A	登園時には健康観察を実施し、降園時に保護者に様子などを伝えた。体調不良の子どもが出た場合は、全員の体温測定や様子を見ることで感染症が広まらないように努めた
② 感染症対策	A	・手洗いの推奨と職員室、保育室、などに消毒液の設置 ・清掃の方による階段の手すり、扉などの随時消毒 ・定期的な遊具や玩具、机やいすの消毒
③ 安全対策	A	・総合遊具の業者による安全点検・砂場の消毒を月に2回実施 ・常駐警備員と防犯カメラの設置 ・避難訓練を毎月実施・消防署の方による消火訓練や通報訓練の実施
3 地域の子育て支援の充実	A	未入园児対象のおやこ教室は、0～2歳コース（月1回）、2～3歳コース（月2～3回）を各コース毎回、2回にわけて開催した。他の未入园児対象のイベントは、なかなか出来ないのが現状である。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	・自己点検、自己評価の実施で保育の振り返りができた。 ・外部研修に積極的に参加し、学びの機会を多く持つことができた。 ・園全体の共通理解、教員同士のチームワークや意見を言い合える雰囲気作りを大切にした。 ・大学の専門教員による質の高い学びと充実した保育内容に努めることができた。 ・年間を通して実習生を受け入れた。様々な学生がいる中、職員間で指導方針を共有し相談しながら、一人一人と丁寧に向き合いながら指導を行い、育成目標に達することができた。 ・必要な感染対策は継続して行い、健康観察や感染症対策に努めた。 ・登降園時には園児の様子を伝えるなど、保護者一人ひとりとのコミュニケーションを大切にし、幼稚園への安心や信頼につながるよう努めた。 ・クラスだよりや SNS で、子ども達の様子や行事の取り組みを発信するよう努めた。

◎「3.4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分ではない
D	取り組みが不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全管理の意識向上	毎月の避難訓練を通して緊急時における対処法を、今後も職員間で共通認識を持つ。 遊具や園全体の環境整備の点検、確認により、事前の怪我防止に努める。
教育活動	日々の保育を振り返り、次へと活かせるよう努めていく。 子どもたちが生き生きと過ごせる工夫や方法を職員間で話し合い、保育計画を見直していく。 保護者との連携についても職員間で話し合いを重ね工夫していく。
子育て支援拠点の充実とPR	園の様子や良さが伝わるようHP、インスタグラムでの周知は引き続き行っていく。 地域の子育て拠点としてできる活動を工夫し広げていきたいと考えている。

6. 学校関係者の評価（総評）

- 今も昔も変わらず、先生方と保護者とのコミュニケーションがとりやすい園である。
- 保護者の送迎は大変かもしれないが、先生と毎日話ができることは大事だと思う。
- 登園時に自転車を園庭に入れる対応は、近隣との円滑な関係確保のため、納得している。
- 狭い環境ではあるが、行事を保護者参加型にするため、さらに工夫を重ねて改善したい。
- 感染症が流行した際、行事が中止ではなく延期の対応になったことに感謝している。
- 音楽指導を通して音楽の楽しさを学び、その積み重ねが音楽会へと繋がっている。
- 運動会本番への目標に向かって取り組む姿を参観する機会を作っても良いと思う。
- 芸大での運動会は、距離は遠いかもしれないが、大変との声は聞かない。
- 運動会は各プログラムの選曲も素晴らしいし、親子競技も楽しみで盛り上がる。
- 都会の中ではあるが、園庭や自然など、環境整備が本当にきちんとされている。
- 音楽、造形活動は本物に直接触れる保育で、五感を通した遊びは大切だと思う。

7. 公開保育について

実施日時	令和7年11月21日（金） 9時30分～11時30分
実施場所	大阪芸術大学附属松ヶ鼻幼稚園 保育室・2階ホール
保育者	あやめ1組担当教諭
テーマ	コラージュ遊びを楽しもう
指導助言者	大阪芸術大学短期大学部 保育学科 教授
参加者	こども園園長・保育教諭、保育園園長、デイサービス職員、 幼稚園園長・副園長、育友会会長
総評	先生と子どもの距離が近く、子どもから出た意見も取り入れながら一つにまとまって活動している姿を見て、安心できる幼稚園だと思いました。子ども達が試行錯誤しながら進めていて、挑戦してみてできなかったら友達に手伝ってもらったり自分で工夫をする姿も見られました。聞き取りやすい言葉かけで、否定するようなことは一度もなく、普段から丁寧に保育をしていることが感じられました。一度経験したことが自信になって全員に意欲が見られ、ワクワクするような内容でした。子ども達は個人で遊んだり、グループを作ったりする姿が見られ、その中で先生を支えようとしている場面もありました。選択肢や自由度を広げ、子ども達との信頼関係の深さを感じることができました。